

厚生労働行政推進調査事業費  
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)  
分担研究報告書

国際ガバナンス会議での効果的・戦略的介入を行うための人材育成プログラムの開発

|       |        |                                  |       |
|-------|--------|----------------------------------|-------|
| 研究分担者 | 磯 博康   | 国立健康危機管理研究機構<br>グローバルヘルス政策研究センター | センター長 |
|       | 細澤 麻里子 | 国立健康危機管理研究機構<br>グローバルヘルス政策研究センター | 研究科長  |
|       | 齋藤 英子  | 国立健康危機管理研究機構<br>グローバルヘルス政策研究センター | 上級研究員 |
|       | 若林 真美  | 九州大学<br>アジア・オセアニア研究教育機構          | 准教授   |
|       | 坂元 晴香  | 聖路加国際大学大学院<br>公衆衛生学研究科           | 客員准教授 |
|       | 勝間 靖   | 国立健康危機管理研究機構<br>グローバルヘルス政策研究センター | 研究科長  |
|       | 梅田 珠実  | 国立健康危機管理研究機構<br>グローバルヘルス政策研究センター | 客員研究員 |
|       | 中谷 比呂樹 | 国立健康危機管理研究機構<br>グローバルヘルス人材戦略センター | センター長 |
|       | 鈴木 大地  | 国立健康危機管理研究機構<br>グローバルヘルス政策研究センター | 特任研究員 |

研究要旨

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、国際保健が直面する新たなテーマを取り入れた教材を開発するとともに、世界保健総会等において、様々な立場を代表するステークホルダーの意見を議長として集約し、合意形成をリードしていくためのプログラムを開発することを目的とした。

若手・中堅向けの人材育成プログラムでは、令和7年度も講義と模擬WHO執行理事会を組み合わせたグローバルヘルス外交ワークショップを開催した。今年度は「The Impact of plastic pollution on human health（プラスチック汚染が人々の健康に及ぼす影響）」をテーマとする会議文書の読解、対処方針の検討、加盟国との交渉と会議での発言及び、修文の演習を実施し、WHO役員・職員経験者等からのフィードバックを得た。ワークショップ終了後のアンケートからは、本ワークショップが参加者の国際保健外交のスキル向上に有用であったことが示された。

幹部人材育成プログラムの開発では、世界保健総会での議論の観察ならびに、国際ガバナンス会議議長経験者へのインタビュー調査を実施した。国際ガバナンス会議での議長経験者へのインタビューから議長に求められる能力として、①スキル、②知識、③態度、④リソースの4側面に抽出され、これまで暗黙知や経験知として扱われてきたことを体系的に整理することができた。

A. 研究目的

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論

に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張し合意形成を行うためには、それを可能とする人材の育成が急務である。本研究

では、国際秩序や多国間主義の危機、地政学的パワーシフトなどが国際保健外交にも影響を与えている中、国際保健分野の会議、とりわけ世界保健総会・執行理事会等のガバナンス会議において、世界が直面する新たな課題を理解し、効果的かつ戦略的な関与ができる人材を育成するための研修プログラムの開発を目的としている。

本研究は、2つのコンポーネントを軸として進めている。1つ目は、模擬国際会議等を通じた効果的・戦略的介入のための人材育成研修であり、2つ目は国際ガバナンス会議において合意形成をリードする議長候補者等の人材育成に向けたプログラム開発である。

## B. 研究方法

### 1. 模擬国際会議等を通じた効果的・戦略的介入のための人材育成研修

令和7年度は、世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要な国際会議において、国際保健に関する課題についての議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張できる人材の育成を目的として、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催した。

対象は行政機関(厚生労働省、外務省)、国際協力機構、製薬会社などから、国際会議の経験を有するあるいは参加予定であるが国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者を対象とする。また関連領域の大学院生、大学生および大学教員を含む20名程度のオブザーバーも対象とした。

ワークショップは以下7点を目標に、世界保健機関、タイ政府、日本政府および研究班分担研究者から講師を招いて、パブリック・スピーキング、交渉、効果的な介入、修文の方法、交渉が困難な保健課題のケーススタディなど国際保健外交に関する講義と演習のプログラムを構成した。

#### (1) 国際機関(国連・国連の専門機関・パー

トナーシップ)におけるガバナンスの意味を理解する。

(2) 国際会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。

(3) 国際会議の標準的なルールを理解する。

(4) 国際会議で有効な発言をすることができる。

(5) 国際会議の意思決定に自らの主張を反映させる手法を習得する。

(6) 国際益と国益を調和させる姿勢を涵養する。

(7) 国際会議の暗黙知を共有する。

ワークショップでは、参加者を対象とした終了時評価アンケート調査を実施し、研修カリキュラムの評価に関するフィードバックを得た。アンケートはすべて任意の匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、教材・研修プログラムのさらなる改善を図った。また、2021年度から2024年度のワークショップに参加した参加者を対象として、フォローアップアンケートを実施し、ワークショップの長期的な効果の検証も行なった。

### 2. 国際ガバナンス会議において合意形成をリードする議長候補者等の人材開発

世界保健総会に分担研究者の鈴木が参加した。今年度の総会では、議長に求められるスキルを明らかにすることで、議長養成に必要なプログラムの内容に活かすべく、主にA委員会での議長の議場での采配を中心に観察を行なった。また、様々な立場を代表するステークホルダーの意見を議長として集約し、合意形成をリードしていくための人材育成プログラム開発に向けて、これまでに世界保健総会等の国際ガバナンス会議において、議長を経験した人材へのインタビュー調査を実施した。

### 3. 今後の国際保健外交人材育成の在り方に関する検討

昨年度に引き続き、国際保健外交に深く関わっている各国の教育研究機関をメンバーとする Health Diplomacy Institutional Network（スウェーデン国カロリンスカ大学等が主催、世界各国 38 機関により構成）に参画し、国際保健外交に関する研究、教育研修プログラム、啓発活動などについて、定期的なオンライン会合で情報交換を実施している。このうち教育研修プログラムに関しては、2025 年 10 月 13 日に World Health Summit（於ベルリン）の関連セッションとして同ネットワークが主催する会合に参加するとともに、11 月 27 日～28 日にジュネーブで同ネットワークが主催した Workshop についてオンラインで内容を入力し、各国のプログラムの進捗状況、手法、効果的な教材や評価などについて情報収集を行った。また、今年度は国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所の瀧澤郁雄氏を招聘し、UHC や PPR、イノベーションなどの観点から、「グローバルヘルスにおける日本の役割を再考する」というテーマで特別講演を開催し、国際保健外交における日本の役割について議論を行った。

#### （倫理面への配慮）

本研究における評価は、すべて匿名回答を用いるため、個人の同定は不可能であり、倫理審査の対象外である。

### C. 研究結果

#### 1. 模擬国際会議等を通じた効果的・戦略的介入のための人材育成研修

令和 7 年 11 月 29 日～11 月 30 日の 2 日間にわたり、講義と演習を交えたワークショップを開催した。今年度の講義も、昨年度までと同様にこれまでも行ってきたグローバルヘルス外交の概論や実践に関する講義に加えて、午後に行われる演習のテーマに関連した講義を行い、講義と演習が有機的につながるよう工夫をした。昨年度に引き

続き、合意文書作成から修文に至る経緯や交渉経験について、国際機関での役員・職員としての経験を有する講師や政府担当者から直に学ぶ講義も組み込んだ。また、講義、演習ともにオンライン配信をし、オブザーバーや海外の講師陣も参加できるようにした（プログラム詳細は表 1「Global Health Diplomacy Workshop (2025): Course Schedule Overview」を参照）。参加者は若手を中心とした 19 名、オブザーバーは 12 名であった。アンケート回答者の構成を図 2 で示す。

対面式演習では、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、本ロールプレイ演習のために用意した WHO 執行理事会における架空の議題をテーマに模擬 WHO 執行理事会方式で介入の演習を実施した。参加者は、数名ずつのチームに分かれ各国の代表団（Motunui, Republic of Darius, Rhodosia, Vikingen の 4 か国）として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。また、国際経験豊富なファシリテーター 4 名が、各国の演習において随時きめ細やかなアドバイスを提供した。ファシリテーターのうち 1 名は、今年度の世界保健総会（令和 7 年 5 月 19 日～5 月 24 日）に参加し、対処方針作成や技術委員会での介入を行った経験を生かし、ワークショップでの教育指導スキル向上を図った。

ワークショップ終了時評価アンケート調査からは、昨年に引き続き、大半の参加者から「難しかった」、「普通」と回答が得られた（図 1）。2 国間交渉を除く各セッションにおいて、初日と比べて二日目では「難しい」と回答したものが減り課題理解が進んだことが確認された。また、参加度（図 2）についても、多くの参加者が「積極的に参加」「ある程度参加」と回答しており、少人数対面制でのロールプレイ演習の有用性が確認された。本ワークショップから得られた、国

際会議で効果的に介入するために必要なことに関する気づきについては、「入念な準備」「具体的な介入・交渉技術」が多く見られた（表3）。ワークショップ全体に関するコメント（表4）からは、限られた時間の中でも有意義な学びが多くあったとの回答があり、本ワークショップが参加者のグローバルヘルス外交交渉におけるスキル向上に有用であったことが示唆された。

ワークショップのフォローアップアンケート調査では、20名から回答を収集した。回答者の全員が「国際会議の構成や流れに関する知識」、「国際会議における効果的な介入／発言スキル」の向上について、有効だったと回答した。一方、「異文化コミュニケーションスキル」、「意思決定プロセスにおけるリーダーシップスキル」、「国際会議や他国とのやりとりで臨む際の自信」の向上については、「あまり有効だったと思わない」の回答が20～35%あった。「ワークショップがその後の業務に役立ったか」という質問に対しては、90%以上が「非常にそう思う」、「そう思う」と回答した。自由記述においては、国際保健外交やその他の国際会議、国際労働外交などほかの分野でも役立ったとの回答があった。

さらに、本ワークショップで開発したコンテンツは国内のアカデミアにおいて発展的活用が進んでおり、昨年度までに引き続き、令和7年度も長崎大学プラネタリーヘルス学環博士課程学生を対象としたグローバルヘルス外交コースにおいて、講義と事例教材を交えた模擬WHO執行理事会形式で計4日間の授業を行った。また今年度からは、九州大学において学部生向けの講義と演習形式の授業でも活用している。

## 2. 国際ガバナンス会議において合意形成をリードする議長候補者等の人材開発

今年度は世界保健総会A委員会における議長の采配の見学ならびに、これまでに国

際ガバナンス会議における議長経験者6名へのインタビュー調査を通し、国際ガバナンス会議において合意形成をリードする議長候補者等の人材開発プログラムの要素を抽出した。今年度の世界保健総会では、これまでのコンセンサスベースの合意形成の方法とは異なり、電子投票システムを使用した投票による決議が多く見られており、より効率性を重視した会議運営スタイルが伺えた。また今年度の世界保健総会ではアメリカの加盟国脱退や加盟国脱退における拠出金の変化やパンデミック協定の採択など、WHOにおいても歴史的な変革期を迎えており、例年と比較しても議題の開示が遅く、会議日直前に発出されるものあり、議事内容を短い期間で確認し、会議を運営していく能力や、電子投票等のツールを活用しながら、費用対効果を意識した会議を采配していくためのスキルが求められることが実感された。

また、これまでに国際ガバナンス会議において議長経験のある人材へのインタビュー調査から、①スキル、②知識、③態度、④リソースの4側面に分類して分析を実施した。

### 1) スキル

スキルでは、『会議進行』や『ネゴシエーション』、『調和的な雰囲気づくり』といった、主に円滑に会議を運営していくための要素が抽出された。またこれらのスキルは、議長の十分な知識や経験値に基づくものも多く、さらには議長自身の価値や信念によって構成されている。

### 2) 知識

知識では会議運営に必要な会議則の理解や、議題に関連する背景知識などの『十分な知識』だけではなく、見識と経験と語るべきものである『経験知』や世界の中での日本の立ち位置を理解すること、そして自分自身に課せられている役割を理解することの重要性がうかがえた。

### 3) 態度

態度面では広い視野を持ち、中立・公平で謙虚な姿勢である『オープンな姿勢』が必要とされ、議長として自己の時間を割き、問題解決に向けて努力を惜しまない、『エフォート』を割くことが要素として抽出された。また相手絵への敬意や信頼、相手の心情を汲み取り、『調和的な雰囲気づくり』をしていくことも必要である。さらに、会議の進行においては、議題の解決に向けた問題意識をもつ姿勢が必要であり、これらの態度は議長の信念により構成されていることが示唆された。

### 4) リソース

リソースでは、これまでの会議への参加経験や、自身のロールモデルが身近にいること、またそれらによって獲得した人脈などが挙げられた。さらに、日本人の特性の強みや、日本の行政組織の特性も含まれ、これらのリソースを活用することが議長に求められる能力を構成している。

### 3. 今後の国際保健外交人材育成の在り方に関する検討

Health Diplomacy Institutional Networkの参加機関として、新たに東欧や中東の機関が加わり、また、World Health Summitにおけるグローバルヘルス会合に多数の参加者が集ってグローバルヘルス外交の研究や研修について議論が交わされたことから、グローバルヘルス外交への世界的な関心が高まっていることが示唆された。2025年度は、Health Diplomacy Institutional Networkの参加機関が関与するプログラムだけを見ても、ギニアビサウ、サウジアラビア、オーストラリアでグローバルヘルス外交プログラムが新たに導入され、ガーナ、ブルキナファソ、スロベニア、中東地域（レバノンなど）、東欧地域（ラトビアなど）が新しい人材育成プログラムを開発中である。地域内

の国が共同で実施するプログラムでは、地域固有のアジェンダ設定（例えば、アフリカの現状を踏まえた実践的な演習やシミュレーション）を含むなどの特徴があり、中国は既存の国内参加者向けのプログラムに加え、国外参加者も多く受け入れるプログラムを検討中である。Health Diplomacy Institutional Networkでは、今後、教材の共有やプログラムの評価手法の開発において、参画機関のさらなる協力を模索している。

日本からの情報発信として、本研究班が実施した GHDWS2025 のレポートを The Health Diplomacy Institutional Network のホームページに投稿し掲載された。

<https://healthdiplomacynetwork.com/global-health-diplomacy-workshop-2025-japan>

### D. 考察

令和7年度も対面での講義と演習を原則とした、ハイブリッド型でのワークショップを実施した。複雑化する国際保健情勢を反映した今日的な議題を演習テーマにし、さらに交渉経験者による講義や修文作業に関する講演を充実させることで、より実践的なワークショップが可能となった。その後のアンケート調査からは参加者の内、国際会議の場に参加する機会を得た修了者も多く、実際の会議の場において、本ワークショップでの講義内容や演習が有用であったことが窺えた。本研究班では、本ワークショップのために研究班にて作成した資料の教材化ならびにプログラムの応用展開も進めている。これまでに大学院生や学部生向けに内容を改変し展開してきたが、今後は外交官など、より従来の保健領域に留まらない層への展開を予定している。

国際ガバナンス会議での議長経験者へのインタビューから議長に求められる能力として、①スキル、②知識、③態度、④リソースの4側面から抽出され、これまで暗黙知や経験知として扱われてきたことを体系的に整理することができた。これらの要素は、4側面に対して多角的に関連していること

から、今後は内容の整理を行い、議長に必要な能力を獲得できる体系的なプログラム開発を目指していく。

一方で、米国の WHO 脱退、ドナー資金縮減やグローバルサウスの台頭など、グローバルヘルスの構造が大きく変改してく中で、国際保健外交の在り方や国際保健外交人材に求められるスキルも変化していくことが想定される。したがって、日本が国際会議に貢献しプレゼンスを発揮できる人材育成を進めるためには、他国がどのようなグローバルヘルス外交の研修プログラムを実施しているかを知り、日本のこれまでの実績を踏まえて協力できる点は協調し、相互に学びあう関係を築くことも重要と考える。引き続き、Health Diplomacy Institutional Network における情報交換を実施し、現状を分析し、人材育成プログラムの改訂に反映・発展させていく。

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表該当

1) 若林真美, 小林崇希, 鈴木大地, 細澤麻里子, 梅田珠実, 磯博康. グローバルヘルス外交に関する教育プログラムの実践－九州大学における模擬WHO総会を通じた演習とアンケート分析を通じて－. *Japan Journal of Global Health* Vol.41 No.1 p. 29-41, 2026, <https://doi.org/10.11197/jaih.41.29>

##### 2. 学会発表

該当なし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

##### 1. 特許取得

該当なし

##### 2. 実用新案登録

該当なし

#### 3. その他（作成物）

1) 世界保健総会手続き規則に関するビデオ

2) Global Health Diplomacy Workshop での講義資料を基にした、講師向け教材

表 1 . Global Health Diplomacy Workshop (2025): Course Schedule Overview

| Day 1, Saturday, 29 November 2025 |       |                                                                     |                                                                                                               |
|-----------------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Time                              |       | Session Title                                                       | Speakers                                                                                                      |
| 8:50                              | 9:00  | Sign-in on zoom online                                              |                                                                                                               |
| 9:00                              | 9:30  | *Self-introduction and course objectives                            | Prof. Hiroyasu Iso (JIHS)                                                                                     |
| 9:30                              | 10:15 | *World Health Organization and its role in global health governance | Prof. Hiroki Nakatani (JIHS)                                                                                  |
|                                   |       | *Q&A in Japanese                                                    |                                                                                                               |
| 10:15                             | 10:30 | Break                                                               |                                                                                                               |
| 10:30                             | 10:50 | *Preparing for an intergovernmental meeting                         | Dr. Saki Nakamura<br>(Children and Families Agency, the Government of Japan)                                  |
|                                   |       | *Q&A in Japanese                                                    |                                                                                                               |
| 10:50                             | 11:10 | *Intervention: dos and don'ts                                       | Dr. Haruka Sakamoto (St. Luke's International University)                                                     |
|                                   |       | *Q&A in Japanese                                                    |                                                                                                               |
| 11:10                             | 11:50 | * Refinement of draft resolution                                    | Dr. Timothy Armstrong (WHO Representative to the Lao People's Democratic Republic, World Health Organization) |
|                                   |       | *Q&A in English                                                     |                                                                                                               |
| 11:50                             | 12:50 | Lunch ( <i>Please bring your own lunch</i> )                        |                                                                                                               |
| 12:50                             | 13:00 | *Briefing on role-play sessions                                     | Dr. Tamami Umeda (JIHS)                                                                                       |
| 13:00                             | 14:00 | Team deliberation (60 min)                                          | Group facilitators                                                                                            |
| 14:00                             | 14:30 | *Mock-up Session (Plenary #1) (30 min)                              | Chair: Prof. Hiroki Nakatani (JIHS)                                                                           |
|                                   |       |                                                                     | Feedback from resource persons                                                                                |
| 14:30                             | 15:00 | Bilateral meetings (30 min)                                         | Group facilitators                                                                                            |
| 15:00                             | 15:15 | Break                                                               |                                                                                                               |
| 15:15                             | 17:15 | *Mock-up Session (Working Group #1) (90 min)                        | Chair Country: TBD                                                                                            |
|                                   |       | Feedback                                                            | Feedback from resource persons                                                                                |
| 17:15                             | 18:00 | Networking and bilateral meetings                                   | Group facilitators                                                                                            |

| Day 2, Sunday, 30 November 2025 |       |                                                                                                                |                                                                                                                                 |
|---------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Time                            |       | Session Title                                                                                                  | Speakers                                                                                                                        |
| 9:30                            | 9:40  | Recap of Day 1                                                                                                 | Dr. Eiko Saito (The University of Tokyo)                                                                                        |
| 9:40                            | 10:20 | *Real-life negotiations: Case studies of difficult negotiations                                                | Dr. Satoshi Ezoe<br>(Deputy Assistant, Minister for Global Health, MHLW)                                                        |
|                                 |       | *Q&A in Japanese/English                                                                                       |                                                                                                                                 |
| 10:20                           | 10:30 | Break                                                                                                          |                                                                                                                                 |
| 10:30                           | 11:30 | *Overview of Global Health Diplomacy                                                                           | Prof. Suwit Wibulpolprasert (International Health Policy Program, Bangkok)                                                      |
|                                 |       | *Principles of Negotiations                                                                                    | Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Ministry of Foreign Affairs of Thailand)                                                        |
|                                 |       | *Q&A in English                                                                                                |                                                                                                                                 |
| 11:30                           | 11:40 | Break                                                                                                          |                                                                                                                                 |
| 11:40                           | 12:20 | *WHO Pandemic Agreement: The Role and Activities of the Bureau in the Intergovernmental Negotiating Body (INB) | Mr. Kazuho Taguchi<br>(Director, Humanitarian Assistance and Emergency Relief Division, International Cooperation Bureau, MOFA) |
|                                 |       | *Q&A in Japanese                                                                                               |                                                                                                                                 |
| 12:20                           | 14:20 | Working lunch                                                                                                  | Group facilitators                                                                                                              |
|                                 |       | Team deliberation                                                                                              |                                                                                                                                 |
|                                 |       | Bilateral meetings                                                                                             |                                                                                                                                 |
| 14:20                           | 14:30 | Break                                                                                                          |                                                                                                                                 |
| 14:30                           | 15:30 | *Mock-up Session (Working Group #2)                                                                            | Chair: Country: TBD                                                                                                             |
| 15:30                           | 15:45 | Team deliberation                                                                                              |                                                                                                                                 |
| 15:45                           | 16:45 | *Mock-up Session (Plenary #2)                                                                                  | Chair Prof. Hiroki Nakatani (JIHS)                                                                                              |
|                                 |       |                                                                                                                | Feedback from resource persons                                                                                                  |
| 16:45                           | 17:00 | *Wrap-up                                                                                                       | Wrap-up (Dr. Umeda, JIHS)                                                                                                       |
|                                 |       | *Feedback Survey                                                                                               | Feedback Survey (Dr. Hosozawa, JIHS)                                                                                            |
|                                 |       | *Closing Remarks                                                                                               | Closing (Prof. Iso, JIHS)                                                                                                       |

表 2. 参加者/オブザーバー属性 (回答アンケート)

|                                       |                 | Number | Percent |
|---------------------------------------|-----------------|--------|---------|
| Age range                             | 20-29           | 2      | 10      |
|                                       | 30-39           | 8      | 38      |
|                                       | 40-49           | 7      | 33      |
|                                       | 50-59           | 2      | 10      |
|                                       | 60 and over     | 2      | 10      |
| Sex                                   | Male            | 7      | 33      |
|                                       | Female          | 14     | 67      |
| Experience in Global Health Diplomacy | With experience | 4      | 19      |
|                                       | No experience   | 17     | 81      |

表 3. 国際会議で効果的な介入をするために必要なこととは何か、本ワークショップから得られた気づきについて（自由回答）

| コメント（自由回答）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>状況把握し手を打ち続けること、一言一句の重み</p> <p>必要なことは自身の役割を明確に理解すること、会議に参加するにあたり可能な限り情報を集めて参加国の主張を認識すること、そして我が国の目的を正しく認識することだと感じました。それらをワークショップを通じて具体的にイメージを持てたことが気づきに繋がりました</p> <p>Collecting information from stakeholders and understanding their interests.</p> <p>各国の主張だけでなく、裏にある interest を見極めて合意形成を促すこと</p> <p>国際会議を成功させるためには準備がその要因の 9 割を占めることになると感じました。本会議前から事前に根回しをしつつ、味方を増やしていくこと、反対意見であろう国々とも本音を探っていくことが重要だと学びました。また、戦うことが目的ではなく、共通のゴールに向かってできるだけ互いが納得できる落とし所を見つけていくスタンスが合意形成を進める上で重要だと感じました。また、Mr.Charlie に教えていただいたとおり、様々な交渉術を使いながらコミュニケーションを積極的に取ることの重要性を学びました。</p> <p>他国の発言や主張の裏側にある意図を聞き出すこと</p> <p>文章を正確に読み込み、その背景や意図を的確に理解したうえで、対応方針に沿った建設的な発言ができるよう、十分な準備と練習を行うことの重要性を実感しました。経験豊富な方々が口をそろえて「準備と実践 (practice) が不可欠」と強調されていた点が特に印象に残りました。今回の WS でも得た様々な tips 含めたくさんありますが、そのほかにもシンプルに言うとな十分な準備とその理解、他国の方針・特徴の把握、以前からの議論であればその経過の把握、交渉スキルと表現力や発音を含めた十分な英語力の習得は最低限必要と感じました。</p> <p>Advanced English proficiency and a comprehensive understanding of the topic</p> <p>WHA の resolution の裏にある様々なポジションの方の努力の細やかな作業と姿勢</p> <p>Team work, strength of words in the document, difficulties of making agreement in the document</p> <p>まずは感謝の言葉を述べる、主張すべき場面では自国の立場を明示的に主張する等について学びました。</p> <p>事前準備・根回しの重要性などは認識していたが、現場での表・裏のやり取りの立ち回りやテクニカルなスキル・ノウハウの重要性を認識。また、常日頃からの発言機会を獲得していくことの重要性。</p> <p>交渉は合意形成のために行うものであるということ。そのために建設的なやりとりが繰り返しの必要になることが理解できました。一つ一つの言葉の使い方に慎重になり吟味する必要があることがよくわかりました。</p> <p>気づきは多くありましたが、特に発言時の具体的な注意点（表立って批判することは避けつつも主張はしっかりとす、決議案の変更は変更点を分かりやすく示した後に根拠を述べる、通訳にとって分かりやすい英語での発言等）やコーヒー・ランチブレイク時にどのように交渉を進めるか、実践的な気づき・学びがありました。</p> <p>大変貴重な技術や知識を多く学ばせてもらいましたが、前のめりかつ挑戦的な姿勢、また、その場数の経験が重要であることを学びました</p> <p>Collecting information and understanding other people's interests.</p> <p>とにかく「主張」「根拠 1,2～」の順で話すこと。また、相手を論破するのではなく、どうやってコンセンサスをとるのかを常に意識すること。</p> |

表 4. ワークショップ全体に関するコメント (自由回答)

| コメント (自由回答)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>実践的に体験させていただける有益な研修です。国際機関や会議で活躍したいと考えている職員が多くいると思いますので継続して開催いただきたいです</p> <p>国際会議の進め方、準備、議論等を第一線で活躍する先生方から教えていただくとともに自ら実践できるワークショップを準備いただき、学びの多い時間となりました。国際会議の効果的な介入について、若手職員にもこのような実践的な経験を積ませていただき、将来学びを活かしてまいりたいと思います。</p> <p>多様なご経験をお持ちの講師の方々から、非常に具体的な講義と実践的な演習をご提供いただき、グローバルヘルス外交への理解を大きく深めることができた素晴らしいワークショップでした。</p> <p>大変貴重で、かつ関心が高い方と一緒にロールプレイができ、また第一線の先生方の講義及びフィードバックを受けることができ、大変有意義な時間を過ごせました。今までで感じたことがない充実感があり、週末の開催でもネガティブな感覚がなくむしろ大変有益で帰宅後も余韻が残っている、そんな感覚です。</p> <p>Practice and learning through failures serves as an excellent compass that guides us in the right direction. I thank you All. It was a great opportunity to gain comprehensive knowledge and the right attitude toward Global Health Diplomacy.</p> <p>この様な貴重な機会を与えていただき、また有能な先生方の講義を受けることができ、ありがとうございます、ここに改めて深く感謝申し上げます。</p> <p>豪華な講師陣からのお話、緻密に練っていただいたシナリオ等を実際に模擬国際会議として実践することで学びが多かったです。</p> <p>エキスパートの先生方が実践されている思考法、テクニカルなスキル・ノウハウなど体系的に教えていただき大変勉強になりました。実践を通じて身に付けていきたいと思っています。</p> <p>正直 WHA や EB という言葉は聞き、文書に触れる機会もあるものの現場で何をしているのかがよく知らずにいました。これからどのような視点で文書に目を通せば良いのかがよく理解できました。また交渉の技術やフォーマルな言い回しは普段の小さな会議の中でも積極的に磨いていきたいと思いました。とてもリアルな設定でご準備いただき、全体を通してとても楽しかったです。</p> <p>私にとっては初めて知ることが多く、大変学びの多い機会となりました。内容が実践的で具体的なイメージが付き、将来 WHA など国際会議に出席がかなえば必ず役立つ経験だと思っています。</p> <p>普段なかなか一同に会さないような素晴らしい講師の皆様のご経験や知識について伺わせていただくとともに、午後のセッションでは付け焼刃ではありながらもなんとか活かそうとものがくことで、多くの学びを得ました。復習をして自分に血肉にできるように邁進します。</p> <p>今回のワークショップでは短い期間あったものの、とても実りの多い2日間を過ごすことができました。これまで漠然としていた「国際機関で働く人の具体的な業務」や、「数多く存在するグローバルヘルスアクターそれぞれの役割」の整理が、今回の講義や議論を通じてより明確になりました。また、国際会議はもちろんのこと、他の組織や人との交渉において本質的に重要なマインドセットやアプローチについて学ぶことができました。加えて、対面で参加することにより、普段ウェブでしか顔を拝見することができないような、グローバルヘルスで活躍されている日本人の方とお話をする機会が得られ、実際の仕事について、グローバルヘルスにおけるキャリアについて、多くを学ぶことができました。皆様からの学びを今後の活動に生かしながら、微力ながら日本及びグローバルの公衆衛生課題の解決に貢献できる人材になれるよう努めてまいります。</p> |

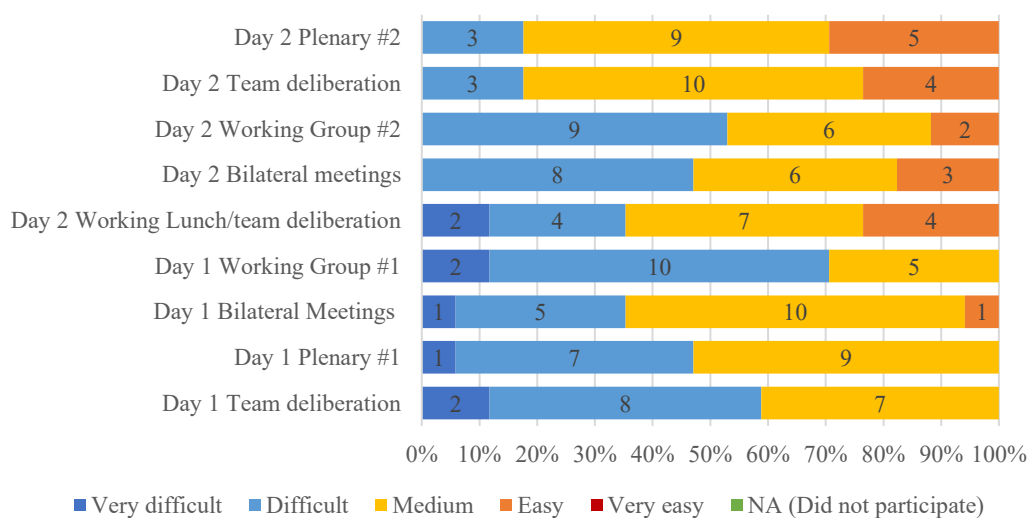


図1. 各セッション難易度（演習参加者のみ回答）

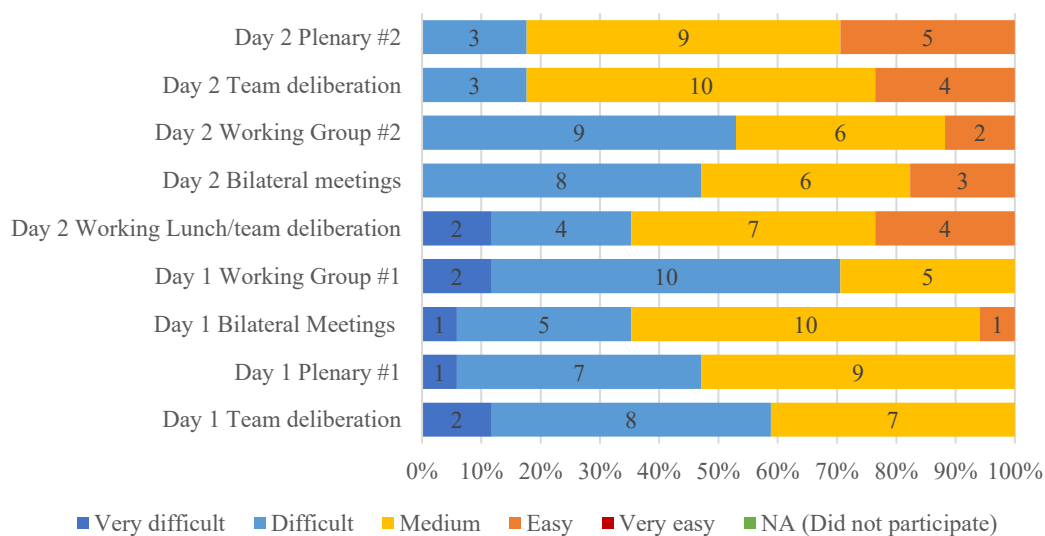


図2. 各セッション参加度（演習参加者のみ回答）

## Speakers and Resource persons list

Prof. Hiroki Nakatani 中谷 比呂樹 (日本)  
Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH),  
Japan Institute for Health Security (JIHS)  
国立健康危機管理研究機構 グローバルヘルス人材戦略センター(HRC-GH) センター長

Dr. Saki Nakamura 中村 早希 (日本)  
Deputy Director, Maternal and Child Health Division, Child Development Bureau,  
Children and Families Agency, the Government of Japan  
こども家庭庁成育局母子保健課 課長補佐

Dr. Haruka Sakamoto 坂元 晴香 (日本)  
Visiting Associate professor, Graduate School of Public Health,  
St. Luke's International University  
聖路加国際大学 公衆衛生大学院 客員准教授

Dr. Timothy Armstrong (ラオス)  
WHO Representative to the Lao People's Democratic Republic,  
World Health Organization

Dr. Satoshi Ezoe 江副 聡 (日本)  
Deputy Assistant Minister for Global Health, Ministry of Health, Labour and Welfare,  
厚生労働省 大臣官房国際課 国際保健戦略管理官

Mr. Kazuho Taguchi 田口 一穂 (日本)  
Director, Humanitarian Assistance and Emergency Relief Division,  
International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs  
外務省国際協力局 緊急・人道支援課長

Dr. Suwit Wibulpolprasert (タイ)  
Chair of the PMAC Strategic Institute (PMAC SI) Steering Committee,  
Vice Chair of the International Health Policy Program Foundation (IHPPF),  
Vice Chair of the Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF),  
International Health Policy Program (IHPP Thailand), Ministry of Public Health, Thailand

Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (タイ)  
Ministry of Foreign Affairs, Thailand

Prof. Kazuaki Miyagishima 宮城島 一明 (フランス)  
Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan  
長崎大学 熱帯医学研究所 客員教授

Prof. Hiroyasu Iso 磯 博康 (日本)  
Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP),  
Bureau of Global Health Cooperation, Japan Institute for Health Security (JIHS)  
国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター  
センター長

Dr. Tamami Umeda 梅田 珠実 (日本)  
Specially appointed researcher, Institute for Global Health Policy Research (iGHP),  
Bureau of Global Health Cooperation, Japan Institute for Health Security (JIHS)  
国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター  
特任研究員

Dr. Eiko Saito 齋藤 英子 (日本)  
Associate Professor, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo  
東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授

Dr. Mami Wakabayashi 若林 真美 (日本)  
Coordinator, Department of Overseas and Engagement, Associate Professor,  
Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies  
九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 海外実装部門 准教授 (コーディネーター)

Dr. Nobuyuki Kawachi 河内 宣之 (日本)  
Division of Global Health Policy and Research, Department of Health Planning and Management, Bureau of Global  
Health Cooperation, Japan Institute for Health Security (JIHS)  
国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局 運営企画部 保健医療開発課 医師

Dr. Mariko Hosozawa 細澤 麻里子 (日本)  
Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation,  
Institute for Global Health Policy Research (iGHP),  
Bureau of Global Health Cooperation, Japan Institute for Health Security (JIHS)  
国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター  
主任研究員

Mr. Daichi Suzuki 鈴木 大地 (日本)  
Specially Appointed Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation,  
Institute for Global Health Policy Research (iGHP),  
Bureau of Global Health Cooperation, Japan Institute for Health Security (JIHS)  
国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター  
特任研究員